

講義概要

SYLLABUS

令和7年度

2年生

歯科衛生学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

| 科目名 | 臨床英会話 |
|-------------|---|
| 講師 | 南 雅子 長く言語に関わり、特に医療系専門学校で20年以上の講師経験を持つ。それぞれの専門学科に応じて学生が実践で使える英語の学習に前向きに取り組めるプログラムや指導を心がけている。 |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、30時間（講義） |
| 講義目標 | 歯科衛生士を目指す上で知っておきたい英語の基礎知識や表現をわかりやすく学び、実際の診療現場で対応できるように実践の練習を多くおこなう。毎回講義の最後に話すことになれるための短いフレーズ、用語のスピーキング練習を取り入れる。 |
| 授業計画 | 内容 |
| 第1回 | 授業内容解説/歯科衛生士がおさえておきたい用語、歯科フレーズ(1) 受付の会話 / 英語での自己紹介練習/ Speaking for DH / すぐに使える日常英会話フレーズ(1) 挨拶の表現 |
| 第2回 | 専門用語(永久歯の名称) / 歯科フレーズ(2) / presentation(1)自己紹介(歯科衛生士) |
| 第3回 | 専門用語(受付、問診などで使える用語) / 歯科医院受付の会話 / presentation(2)受付の会話 ペアワーク練習 / Speaking for DH / すぐに使える日常英会話(2) お礼 |
| 第4回 | 用語、フレーズ、永久歯の名称レビュー口頭練習/ 診療現場で役立つ指示フレーズ / presentation(2) 受付の会話 / 一般症状名の英語 |
| 第5回 | 歯科用語(歯のダメージの言い方) / 歯科フレーズ (3) / presentation(3) 指示語をつかった会話、患者への声かけ 練習 / Speaking for DH / すぐに使える日常英会話フレーズ(3) |
| 第6回 | ブラッシング指導の会話 / 歯周検査の会話、歯周病などの用語/ 痛みの英語 |
| 第7回 | presentation(3) pair work 指示語をつかった会話、患者への声かけ / Speaking for DH |
| 第8回 | スケーリング関連フレーズ、会話/ 身体の名称 / Speaking for DH / センテンスの review |
| 第9回 | presentation(final) 歯科衛生士と外国人患者の会話 - 解説、scriptの作成 (チェック後提出) 練習 / speaking for DH |
| 第10回 | メンテナンスでの関連フレーズ、会話 / Speaking for DH/ 日常会話フレーズ(5) |
| 第11回 | presentation(final) 歯科衛生士を外国人患者の会話 / 歯科衛生士関連用語、関連フレーズ練習 |
| 第12回 | 歯科衛生士関連用語、フレーズ oral examination |
| 第13回 | 歯科用語、フレーズまとめ / 前期末試験のためのレビュー |
| 第14回 | 総復習 確認テスト |
| 第15回 | 確認テスト返却見直し/ 歯科衛生士関連用語、フレーズまとめ / 緊急時の英語 / 掲示表現 |
| 履修上の注意 | 進捗状況や難易度によって調節を必要とする可能性があります。 |
| 成績評価 | 診療英会話のpresentationおよびoral test 50% / 学期末の内容理解のための確認テスト 50%で評価。 単位認定者：南 |
| テキスト | プリント教材 |
| 参考図書 その他 | 医歯薬出版 歯科医院での実用英会話 第3版 |

| | |
|------|---|
| 科目名 | 衛生・公衆衛生学 |
| 講師 | 関根 伸一 病院歯科予防歯科、障害者歯科治療部、医療情報部で歯科医師として勤務経験を有しており、歯科衛生士養成機関においても教育経験がある。さらに、口腔衛生学会認定医の経験を活かし口腔衛生学の講義をする。 |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、30時間（講義） |

講義目標 「保健医療の実態」「予防医学の概念」「社会的環境要因と健康との関係」を理解することを目的とする。

| 授業計画 | 内容 |
|------|--|
| 第1回 | 医療倫理について学ぶ。 「プライマリヘルスケア」「ヘルスプロモーション」「健康日本21」について理解する。 |
| 第2回 | 「健康、予防の概念」と「社会環境」について学ぶ。 「予防医学」「予防の3相5段階」について理解する。 |
| 第3回 | 疫学とその応用 「宿主要因」「環境要因」「記述疫学」「分析疫学」「介入研究」について理解する。 |
| 第4回 | スクリーニング検査 「偽陽性」「偽陰性」「ROC」について理解する。 |
| 第5回 | 人口統計 「人口静態統計」「国勢調査」「人口ピラミッド」「老年人口指数」について学ぶ。 |
| 第6回 | 健康と環境 「PM2.5」「感覚温度」「水質基準」「感染性廃棄物」について学ぶ。 |
| 第7回 | 感染症 「新興感染症」「ノロウイルス」「黄色ブドウ球菌」「サルモネラ」について学ぶ。 |
| 第8回 | 食品と健康 「食育」「食事バランスガイド」「食中毒」について学ぶ。 |
| 第9回 | 社会保障 「ヘルスプロモーション」「ノーマライゼーション」「健康日本21」「保健所」について学ぶ。 |
| 第10回 | 地域保健 「地域保健法」「保健所」「市町村保健センター」について学ぶ。 |
| 第11回 | 母子保健 「母子健康手帳」「1歳6か月児健診」「3歳児健診」「児童虐待」について学ぶ。 |
| 第12回 | 学校保健 「保健教育・保健管理」「CO」「GO」「生きる力」について学ぶ。 |
| 第13回 | 成人保健・産業保健 「生活習慣病」「特定健康診査」「健康増進法」「トータルヘルスプロモーション」について学ぶ。 |
| 第14回 | 高齢者保健 「ADL」「JADL」「介護保険」「老人福祉」「地域包括支援センター」について学ぶ。 |
| 第15回 | 国際保健・災害時保健 「SDGs」「WHO」「災害関連死」「フェーズ」について学ぶ。 |

履修上の注意

成績評価 授業への取組や姿勢 20% 定期試験 80% 単位認定者：関根

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学

参考図書
その他

| | | | |
|------|-------------------------------------|---|-----------------|
| 科目名 | 衛生行政・歯科統計学 | | |
| 講師 | 高山 由希 (衛生行政) 岡 真太郎 (衛生統計学) | 大阪歯科大学卒業後、予防歯科・口腔衛生学を専攻して博士(歯学)を取得後、スイス・ジュネーブにある世界保健機関に1年間短期講師として従事。その後、公益財団法人ライオン歯科衛生研究所にて20年間口腔保健の仕事に携わりました。皆さんの未来に役立つお話ができたらうれしく思います。(高山) 大阪大学歯学部卒(歯科医師)、大阪大学大学院歯学研究科修了(博士(歯学))阪大学歯学部附属病院オーラルデータサイエンス共同研究部門特任助教 AI・機械学習を用いた研究を行っている。(岡) | |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、30時間(講義) | 衛生行政 | 16時間 歯科統計学 14時間 |

講義目標 歯科医療及び医療に必要な法や社会の仕組みを法律等の観点より学ぶ。(衛生行政)
歯科衛生士が遭遇する統計等の情報処理方法を習得できる。(歯科統計学)

| 授業計画 | 内容 |
|------|---|
| 第1回 | 衛生行政と法制概論 |
| 第2回 | 衛生行政の基幹をなす法制度、法律、主な健康施策について(地域保健法・健康増進法等) |
| 第3回 | 医療法総論 |
| 第4回 | 医療法各論と薬に関する法律(薬機法) |
| 第5回 | 歯科医療に関する法律①(歯科医師法、歯科技工士法など) |
| 第6回 | 歯科医療に関する法律② 歯科衛生士法 |
| 第7回 | 国民医療費・社会保険 |
| 第8回 | まとめ |
| 第9回 | 疫学総論 保健情報と保健統計 |
| 第10回 | 疫学総論 疫学とは |
| 第11回 | 歯科疾患の指標 齲蝕の疫学・指数 |
| 第12回 | 歯科疾患の指標 歯周病の疫学・指数 |
| 第13回 | 歯科疾患の指標 その他の疫学・指数 |
| 第14回 | データの分析方法 相関・検定・結果の解釈 |
| 第15回 | まとめ 定期試験対策 |

履修上の注意 4回の講義で歯科保健に係る行政施策の仕組みと関連する法律についてお話しします。近年重要性が増している分野ですので、講義中は集中して理解するよう、努力してください。(衛生行政)

成績評価 定期試験(衛生行政) 毎回理解確認小試験実施(加点対象)、定期試験(歯科統計学)
単位認定者: 高山・岡

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度(衛生行政)
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学(歯科統計学)

参考図書
その他

| | |
|------|--|
| 科目名 | 歯科補綴学 |
| 講師 | 油谷 征彦 これまで多数の歯科衛生士養成機関専門学校において高齢者歯科学・歯科矯正学や歯科補綴学の講義を担当し教育経験を有している。現在、明石市で医療法人愛進会ゆたに歯科クリニックを開業、以上の経験をもって講義を展開する。 |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、30時間（講義） |

講義目標 歯科衛生業務を行うために必要な補綴学を理解することを目的とする。

| 授業計画 | 内容 |
|------|----------------|
| 第1回 | 歯科補綴概要 |
| 第2回 | 歯科補綴治療の基礎知識 |
| 第3回 | 歯科補綴治療の基礎知識 |
| 第4回 | 歯科補綴治療における検査 |
| 第5回 | クラウン・ブリッジ治療 |
| 第6回 | クラウン・ブリッジ治療 |
| 第7回 | クラウン・ブリッジ治療 |
| 第8回 | 有床義歯治療 |
| 第9回 | 有床義歯治療 |
| 第10回 | 有床義歯治療 |
| 第11回 | インプラント治療 |
| 第12回 | インプラント治療 |
| 第13回 | インプラント治療 |
| 第14回 | 特殊な口腔内装置を用いる治療 |
| 第15回 | 補綴歯科治療における器材 |

履修上の注意

成績評価 平常点 定期試験 単位認定者：油谷

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学

参考図書
その他

| | | |
|-----|------------------------------------|--|
| 科目名 | 口腔外科学・歯科麻酔学 | |
| 講師 | 横田元熙 (口腔外科学) 角野公紀 (歯科麻酔学) | 大学生時代から歯科衛生士学生への教育に携わる。大阪大学歯学部卒業後、大学病院口腔外科学教室にて診療に従事。現在は、自由診療専門医院での臨床、スタディグループでの教育やウェブセミナーでの講演、SNSでの情報発信を軸に、日本の歯科医療の発展のために活動。 (横田) 講師は歯科麻酔科において全身麻酔・静脈内鎮静法管理を習得、その後一般診療所での静脈内鎮静法下の治療や有病者歯科治療について10年以上の実務経験を有する。歯科衛生士が業務を行う上で必要となる歯科麻酔学の臨床と有病者への対応について講義する。(角野) |

学年・期 2年生前期、2単位、30時間（講義） 口腔外科学：16時間 歯科麻酔学：14時間

講義目標 わからないことを自分で調べ考える習慣をつける・口腔外科領域および関連する全身疾患に関する幅広い知識を身につける。(口腔外科学)
 局所麻酔、全身麻酔、精神鎮静法、有病者の歯科治療時の注意点について理解する。(歯科麻酔学)

| 授業計画 | 内容 |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 口腔外科の歴史と進歩/口腔外科診断法/手術患者の管理 |
| 第2回 | 先天異常および後天異常/先天異常および後天異常の手術 |
| 第3回 | 顎顔面の外傷/顎口腔の炎症/口腔粘膜疾患 |
| 第4回 | 口腔腫瘍/腫瘍の治療法 |
| 第5回 | 顎口腔の嚢胞/顎関節疾患 |
| 第6回 | 唾液腺疾患/血液疾患/神経疾患と心因性病態 |
| 第7回 | 手術総論/歯・歯槽および周辺組織の外科/移植と再建外科 |
| 第8回 | 総復習 |
| 第9回 | 歯科麻酔学総論1（歯科麻酔とは） |
| 第10回 | 歯科麻酔学総論2（バイタルサイン） |
| 第11回 | 歯科麻酔学各論1（全身麻酔） |
| 第12回 | 歯科麻酔学各論2（精神鎮静法） |
| 第13回 | 歯科麻酔学各論3（局所麻酔） |
| 第14回 | 歯科麻酔学各論4（基礎疾患） |
| 第15回 | 歯科麻酔学各論5（基礎疾患） |

履修上の注意 各回の講義に該当する部分の教科書の予習。定められた形式でのレポート提出。(口腔外科学)

成績評価 講義への出席、各回のレポート提出、定期試験にて評価する(口腔外科学) ・定期試験(歯科麻酔学)
 単位認定者：横田 角野

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版

参考図書
 その他

| | | | |
|--------|--|---|-----------------|
| 科目名 | 小児歯科学・歯科矯正学 | | |
| 講師 | 河崎 真也 | 小児歯科・矯正歯科クリニックで日々診療に従事し、歯科医師臨床研修指導医として後継の教育にも力を注いでいる。令和6年3月に大阪大学歯学部大学院を卒業し、博士号を取得した。これまでの成果、経験を活かし小児歯科学・歯科矯正学を講義する。 | |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、30時間（講義） | 小児歯科学 | 14時間 歯科矯正学 16時間 |
| 講義目標 | 履修科目への意義を持つ。歯科衛生士として必要な教育内容を学び理解する。 小児歯科学・矯正歯科治療の概論と理論を理解する。 口腔領域の成長・発達・口腔疾病や異常・予防法を理解する。 小児歯科診療体系の流れ・矯正歯科治療の実態を知り理解を深める。 小児歯科診療・矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割を理解し業務との関係を説明できる。 小児への医療理論を理解し患者に対するインフォームドコンセントを学ぶ。 | | |
| 授業計画 | 内容 | | |
| 第1回 | オリエンテーション I 編小児歯科診療の基礎知識 1章 小児歯科学概論 | | |
| 第2回 | 2章 心身の発育 | 3章 小児の生理的特徴 | |
| 第3回 | 4章 顔面頭蓋の発育 | 5章 歯の発育とその異常 | |
| 第4回 | 6章 歯列・咬合の発育と異常 | 7章 小児歯科疾病 | |
| 第5回 | II 編 各論 2章 小児歯科における者との対応法 | 1章 小児期の特徴と歯科的問題点 3章 小児歯科診療体系の流れ | |
| 第6回 | 8章 障がい児の歯科治療 III 編 小児歯科診療における歯科衛生士の役割 1章 診察・検査士の業務 | 2章 う蝕予防 | |
| 第7回 | 3章 小児歯科診療における診療補助 5章 歯科診療室と器材管理 | 4章 小児の口腔保健管理 小児歯科診療の実際 | |
| 第8回 | ガイダンス I 編矯正歯科治療に関する基礎知識 2章 成長発育 | 1章 矯正歯科治療の概要 3章 正常咬合と不正咬合 | |
| 第9回 | 4章 矯正歯科診断 5章 矯正歯科治療と力ー矯正力・顎整形力・保定ー | | |
| 第10回 | 6章 矯正装置 I | 7章 矯正装置 2 | |
| 第11回 | II 編矯正歯科治療の実際 1章 上下顎の前後の関係の不調和 | 3章 上下顎の垂直的關係の不調和 | |
| 第12回 | 4章 成人矯正・口腔顎顔面の形成異常と変形 6章 歯の埋伏と歯数の異常・矯正歯科治療見時のトラブル | | |
| 第13回 | 8章 健康保険が適用される矯正歯科治療 III 編 矯正歯科治療臨床における歯科衛生士の役割 2章 矯正歯科診断にかかわる業務・矯正歯科診療補助時の業務 | 4章 矯正歯科患者と口腔保健管理 | |
| 第14回 | 5章 口腔筋機能療法 I・2 / 器材、資材、文書の管理 | | |
| 第15回 | まとめ 定期試験対策 | | |
| 履修上の注意 | 毎回の復習を必ず行うこと、授業の小テストに備える。 | | |
| 成績評価 | 前回授業の小テスト（加点点評価） | 定期試験など | 単位認定者：河崎 |
| テキスト | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版 | | |
| 参考図書 | その他 | | |

| | |
|------|--|
| 科目名 | 高齢者歯科学 |
| 講師 | 児玉 秀樹 講師略歴 大阪歯科大学卒大学院卒 慶応義塾大学大学院卒 歯科医師歯学博士 MBA 大学歯学部 や多くの歯科衛生士学校で教鞭を取る。高齢者は、身体機能および口腔機能が低下し全身疾患を有するなどの特徴がある。こういった高齢者の口腔機能を維持・向上させて管理する役割を修得することを目的とする。 |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、30時間（講義） |

講義目標 歯科衛生士のための高齢者歯科、訪問歯科、摂食嚥下の基礎について学ぶ。

| 授業計画 | 内容 |
|------|------------------------------------|
| 第1回 | 高齢者を取りまく社会と環境 1章2章 |
| 第2回 | 高齢者を取りまく社会と環境 3章4章 |
| 第3回 | 加齢による身体的・精神的変化と疾患 1章～3章 |
| 第4回 | 高齢者の状態の把握 1章 ADL BDR 長谷川式 MMSE |
| 第5回 | 高齢者の状態の把握 2章3章 CDR FAST |
| 第6回 | 口腔健康管理 1章～3章 OHAT ” 歯科診療補助論 P325” |
| 第7回 | 口腔健康管理 4章～6章 ” 歯科診療補助論 P325” |
| 第8回 | 口腔健康管理 4章～6章 ” 歯科診療補助論 P325” |
| 第9回 | 摂食嚥下リハビリテーション 1章 5期モデル |
| 第10回 | 摂食嚥下リハビリテーション 1章 RSST MWST FT 咳テスト |
| 第11回 | 摂食嚥下リハビリテーション VE VF |
| 第12回 | 摂食嚥下リハビリテーション リハビリテーション手法 |
| 第13回 | 高齢者に関わる医療と介護、高齢者歯科における歯科衛生士の実践 |
| 第14回 | 国家試験問題より高齢者歯科摂食嚥下リハビリテーションを学ぶ |
| 第15回 | 国家試験問題より高齢者歯科摂食嚥下リハビリテーションを学ぶ |

履修上の注意 事前に教科書を読んで置く事。質問に関してはメール等を用いる。

成績評価 単位試験問題成績と出席発言積極性を評価する。 単位認定者：児玉

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学

参考図書
その他

| | | |
|------|--------------------|---|
| 科目名 | 障害者歯科 | |
| 講師 | 藤村 梨恵子 三木 貴子 | 大学病院で歯科麻酔、障害者歯科治療に従事。その後アメリカ国立衛生研究所の研究員を経て現在、西宮北口歯科口腔外科にて障害者歯科を専門として診療に携わる。 (藤村) |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、30時間（講義） | |

講義目標 障害者の種類と特性を理解し、歯科医療時に必要な知識を習得する。

| 授業計画 | 内容 |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 障害の基礎 |
| 第3回 | 精神発達・心理的発達と行動障害Ⅰ |
| 第4回 | 精神発達・心理的発達と行動障害Ⅱ |
| 第5回 | 運動・感覚障害Ⅰ |
| 第6回 | 運動・感覚障害Ⅱ |
| 第7回 | 精神障害 |
| 第8回 | 歯科医療時に配慮すべきその他の障害 |
| 第9回 | 障害者に対する歯科医療と行動調整Ⅰ |
| 第10回 | 障害者に対する歯科医療と行動調整Ⅱ |
| 第11回 | 障害者に対する歯科医療と行動調整Ⅲ |
| 第12回 | 障害者歯科における歯科衛生士としての患者へのかかわり方 |
| 第13回 | 障害者に対する口腔衛生管理 |
| 第14回 | 摂食・嚥下障害 |
| 第15回 | 総括 |

履修上の注意

成績評価 定期試験および受講態度によって総合的に判断する 単位認定者：藤村

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学

参考図書
その他

| 科目名 | | 歯科予防処置論Ⅲ |
|-------------|--|---|
| 講師 | 久保田 千尋 近藤 ひとみ 東 忍 | ライオン歯科研究所、歯科医院、株式会社モリタ他勤務。米国ヒューフレディ社及び南カリフォルニア大学にて研修を受ける。ミズーリ大学歯学部歯周病学講座臨床准教授シェリー・バーンズ氏に師事。現在セミナー、講演会、歯科衛生士学校の非常勤講師を行う。(近藤) 歯科衛生士として臨床、歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士(教育)認定(全国歯科衛生士教育協議会)を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。(久保田) |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、60時間(講義・演習) | |
| 講義目標 | 1学年で学んだ基礎を中心に応用能力を高めるとともに他学科で学んだ内容との関連も理解する。また、臨床実習で実習生として対応できるように自信をもった知識と技術を身につける。 | |
| 授業計画 | 内容 | |
| 第1回 | グレーシーキュレットに関する基礎知識と基本操作方法(講義) | |
| 第2回 | グレーシーキュレットの操作方法①(机上) | |
| 第3回 | グレーシーキュレットの操作方法②(机上) | |
| 第4回 | グレーシーキュレットの操作方法③(机上) | |
| 第5回 | グレーシーキュレットの操作方法④(机上) | |
| 第6回 | グレーシーキュレットスケーラー操作 実技確認 | |
| 第7回 | シャープニング(グレーシータイプスケーラー) 歯面清掃器 講義・演習 | |
| 第8回 | 歯・歯周組織の診査(診査・診査用器具について プロービング演習) | |
| 第9回 | 超音波スケーラー・エアースケーラー操作方法(講義・演習) | |
| 第10回 | 超音波スケーラー・エアースケーラー操作・歯面清掃器(総復習)・相互実習について | |
| 第11回 | 相互実習①(プローブ操作・グレーシーキュレットスケーラー操作) | |
| 第12回 | 相互実習②(プローブ操作・グレーシーキュレットスケーラー操作) | |
| 第13回 | 相互実習③(超音波スケーラー操作) | |
| 第14回 | 相互実習④(エアースケーラー操作) | |
| 第15回 | 相互実習⑤(歯面清掃器操作) | |
| 履修上の注意 | レポート及び課題の提出期日は厳守とする。体調管理を整え授業に取り組んでください。実技技術を身につけるため自主練習を重ねてください。積極的な取り組みを期待します。 | |
| 成績評価 | 課題レポート、実技試験、定期試験により総合的に判断する。単位認定者：久保田・近藤 | |
| テキスト | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 | |
| 参考図書 その他 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 1回…90分×2(180分)とする | |

科目名 歯科保健指導論Ⅲ

講師 久保田 千尋 歯科衛生士として臨床、歯科医院で働く。また歯科衛生士教員として、歯科衛生士（教育）認定（全国歯科衛生士教育協議会）を取得、主要3科目を教授してきた。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。（久保田）
 森野 智子 歯科診療所、病院歯科口腔外科、介護保険施設等で歯科衛生士として16年間の勤務経験を有する。また、歯科衛生士養成機関で15年間の教育経験がある。これらの臨床や教育現場での経験を活かし歯科保健指導論を指導する。（森野）
 溝部 潤子 教育歴：歯科衛生士専門学校の非常勤講師・大学（教授）／研究歴：学会活動・厚生労働省科学研究費など／最終学歴：大阪大学歯学部博士課程／臨床歴：大学病院・法人歯科医院（溝部）

学年・期 2年生前期、1単位、30時間（講義・演習）

講義目標 各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を理解する。歯科衛生介入を通して、これまで学習したすべての知識・技術を使いブラッシング指導モデルの取り組みから、その成果を考察することができる。歯・口腔の健康の担い手として、総合的な健康への適切な支援を考えることができる。

| 授業計画 | 内容 |
|------|----------------------------------|
| 第1回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入① 妊産婦期 |
| 第2回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入② 乳児期 |
| 第3回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入③ 幼児期 |
| 第4回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入④ 学齢期・思春期① |
| 第5回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入⑤ 思春期②・青年期 |
| 第6回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入⑥ 成人期 |
| 第7回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入⑦ 高齢期 |
| 第8回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入⑧ 要介護高齢者 |
| 第9回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入⑨ 障害児者 |
| 第10回 | ライフステージに対応した歯科衛生介入 まとめ |
| 第11回 | 歯科衛生過程Ⅱ 情報処理（演習 グループワーク） ・症例展開 |
| 第12回 | 歯科衛生過程Ⅱ アセスメント（演習 グループワーク） ・症例展開 |
| 第13回 | 歯科衛生過程Ⅱ 計画立案（演習 グループワーク） ・症例展開 |
| 第14回 | 歯科衛生過程Ⅱ 評価・まとめ（演習 グループワーク） ・症例展開 |
| 第15回 | 大規模災害被災者・まとめ |

履修上の注意 授業後レポート及び課題の提出期日は厳守とする。授業資料はファイリングをする。体調管理に努めて授業への積極的な取り組みを期待します。

成績評価 課題レポート、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：久保田・森野

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論

参考図書 その他 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みⅠ 保健生態学

| | |
|-----|---|
| 科目名 | 栄養指導 |
| 講師 | 橋本 通子 1987年より管理栄養士として医療機関で栄養指導や企業や市民等に向けて栄養改善事業を行っている。2012年度より歯科衛生士養成校へ「栄養学」と「栄養指導論」の授業を行っており、2022年度より大阪府歯科医師会の主催する8020推進アンバサダー事業の推進委員として活動をおこなっている。 |

学年・期 2年生前期、2単位、30時間（講義）

講義目標 我が国における現代の健康と食生活に関する問題や課題（生活習慣病、歯周病、低栄養等）と、歯科衛生士が必要とする栄養指導の知識と技法について栄養学を基に展開し具体的に学び、事例を通して栄養指導が実際にできるよう演習を中心に授業をおこなう。

| 授業計画 | 内容 |
|------|---|
| 第1回 | 第3章 食生活指導のための基礎知識 国民の健康と栄養の現状（歯科保健 p44～） |
| 第2回 | 令和5年度国民健康・栄養調査 課題：国民の健康と栄養の現状 演習：課題解決について |
| 第3回 | 国民健康づくりにおける食生活改善の取り組みについて（歯科保健 p49～） （健康日本21、食育基本法、食事バランスガイド他） |
| 第4回 | 演習：3日間の食事記録による食事バランスガイド作成 問題のある食事への食事指導、1日に必要な食品構成 |
| 第5回 | 6章 妊娠期・授乳期・乳児期・幼児期・学童期・思春期における栄養 （栄養と代謝 p197～、 p195） |
| 第6回 | 6.食品とう蝕誘発性（歯科保健 p69～） 演習：バランスのよいお弁当作り |
| 第7回 | 6章 成人期におけるの栄養（栄養と代謝 p197～） 7.歯周病と食生活 8.酸蝕症と食生活（歯科保健 p79～） |
| 第8回 | 演習：食事からみた栄養バランスを考える |
| 第9回 | 6章 生活習慣病の栄養指導（栄養と代謝 p197～） |
| 第10回 | 演習：事例から栄養指導を考える |
| 第11回 | 6章 高齢期における栄養（栄養と代謝 p199～） 9.咀嚼と食品（歯科保健 p81～） |
| 第12回 | 演習：咀嚼嚥下機能の低下した人の献立を考える |
| 第13回 | 演習：ライフステージ別の媒体作成 |
| 第14回 | 演習：ライフステージ別の媒体作成 |
| 第15回 | 媒体の発表・まとめ |

履修上の注意

成績評価 レポート提出の評価：40点 試験問題：60点 単位認定者：橋本

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ人体の構造と機能2 栄養と代謝
医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論
新食品成分表F00DS（2024年度版）

参考図書
その他

| | | |
|-------------|---|---|
| 科目名 | 歯科診療補助論Ⅲ | |
| 講師 | 筒井 莉奈 木村 こずえ 松岡 研二 | 歯科衛生士として現在歯科医院で働く。また、歯科衛生士教員として授業を担当していた経験がある。臨床経験、教育現場経験を生かし講義を展開する。(筒井) 歯科衛生士として臨床に従事。歯科医院で働き、新人教育にも携わる。これまでの経験を活かし講義する。(木村) |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、60時間(講義・演習) | |
| 講義目標 | 歯科診療を安全かつ円滑に行うため、歯科診療チームの一員としての役割を学ぶ。歯科診療を行うにあたり、歯科衛生士として必要な基本的事項及び使用される器具、材料、薬品の名称、使用方法を理解する。それにより歯科医師と共同して円滑な歯科診療が行えるようになることを目指す。 | |
| 授業計画 | 内容 | |
| 第1回 | 歯科診療補助論Ⅲについて 概論 | |
| 第2回 | セッティング実習①(保存修復時の診療補助①) | 直接修復法 |
| 第3回 | セッティング実習②(保存修復時の診療補助②) | 直接修復法 |
| 第4回 | セッティング実習 保存修復時総復習 | |
| 第5回 | セッティング実習③(歯内療法時の診療補助①) | 麻酔抜髄・根管充填 |
| 第6回 | セッティング実習④(歯内療法時の診療補助②) | 抜髄・感染根管処置 |
| 第7回 | セッティング実習 歯内療法時総復習 | |
| 第8回 | セッティング実習⑤(補綴治療時の診療補助①) | 間接修復 |
| 第9回 | セッティング実習⑥(補綴治療時の診療補助②) | 間接修復 |
| 第10回 | セッティング実習 補綴治療時総復習 | |
| 第11回 | セッティング実習⑦(口腔外科治療時の診療補助①) | 抜歯 |
| 第12回 | セッティング実習⑧(口腔外科治療時の診療補助②) | 難抜歯 |
| 第13回 | セッティング実習 口腔外科時総復習 | |
| 第14回 | 歯科材料の取り扱い(暫間被覆冠作製) | |
| 第15回 | 車椅子疑似体験(校外) | |
| 履修上の注意 | レポート及び課題の提出期日は厳守とする。体調管理を整え授業に取り組んでください。実技技術をに身につけるため自主練習を重ねてください。積極的な取り組みを期待します。 | |
| 成績評価 | 課題レポート、実技試験、定期試験により総合的に判断する。 単位認定者：筒井・木村 | |
| テキスト | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 クインテッセンス出版 おしごとハンドブック | |
| 参考図書 その他 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 1回…90分×2(180分)とする 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 永末書店 第4版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 | |

| 科目名 歯科理工・歯科放射線学 | |
|-----------------|--|
| 講師 | <p>松岡 研二 (歯科理工) 学会や講習会に参加し、技工技術、歯科の知識を一層向上させる。時代のニーズに合わせデジタルとアナログを駆使し、審美的かつ機能的な補綴物をつくり歯科技工士として25年以上の実績がある。ラボ内では歯科衛生士と共通する歯科材料も取り扱っており、歯科理工学を習得した経験を生かして講義を展開する。(松岡)</p> <p>村上 秀明 (歯科放射線) 現在、大阪大学大学院歯学研究科歯科放射線学講座の教授で歯科放射線学に関する教育と研究の経験年数は30年以上である。同時に大阪大学歯学部附属病院放射線科の科長として臨床経験も30年以上である。(村上)</p> |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、30時間(講義) 歯科理工：14時間 歯科放射線学：16時間 |
| 講義目標 | <p>歯科で使用される材料は、多種多様で非常に多い。これらの材料を、理工学的性質を理解した上で使用できる臨床家を目指す。また後半では、基本的な補綴物を理解し、デジタル・アナログ、多様化する歯科医療に対応出来る知識を習得する。(歯科理工)</p> <p>歯科医療においてエックス線を用いた画像診断は大変重要で、歯科衛生士として画像検査に携わる頻度は極めて高い。エックス線を含めた放射線について理解し、検査に関する知識・技術を修得することを目的とする。(歯科放射線)</p> |
| 授業計画 | 内容 |
| 第1回 | 歯科材料の概要と理工学的性質について |
| 第2回 | 印象材・模型用材料の特徴と取り扱い① |
| 第3回 | 印象材・模型用材料の特徴と取り扱い② |
| 第4回 | 合着・接着剤・形成歯冠修復材・暫間修復材について |
| 第5回 | その他の材料、ワックス・歯冠修復用材料・義歯用材料① |
| 第6回 | その他の材料、ワックス・歯冠修復用材料・義歯用材料② |
| 第7回 | 臨床歯科技工・補綴物の制作過程・I O S～デジタル技工・総まとめ |
| 第8回 | 放射線の基礎知識：放射線の定義、種類、単位、特徴、およびその有効な利用方法について学ぶ。 |
| 第9回 | 歯科診療における放射線：歯科放射線学について概説し、歯科衛生士と放射線の関わりを学ぶ。医学、とくに歯学における放射線治療の有効利用方法を学ぶ。 |
| 第10回 | 放射線の人体への影響：放射線が人体に照射されてから目に見える影響が出現するまでの過程を、放射線物理学と放射線生物学の観点から学ぶ。 |
| 第11回 | エックス線画像の形成：放射線のひとつであるエックス線の発生と減弱・吸収のメカニズムを理解し、エックス線画像の形成過程を学ぶ。 |
| 第12回 | エックス線画像検査：歯科衛生士が関与するエックス線検査について、その原理、手法、補助について学ぶ。課題を与え、レポートを提出させる。 |
| 第13回 | 画像診断：歯や顎骨の正常解剖を理解し、それらがエックス線画像でどのように描出されているのかを知る。そして、異常像の画像診断について学ぶ。 |
| 第14回 | 放射線防護：歯科診療に欠かせないエックス線検査において、歯科衛生士が被曝しない手法を学ぶ。同時に、患者の被曝低減措置を学ぶ。 |
| 第15回 | 放射線治療：口腔がんに対する放射線治療について、その原理、方法、治療成績、歯科衛生士として留意する点を学ぶ。理解度の筆記試験を行う。 |
| 履修上の注意 | <p>確認テストを行います。復習をしてください。(歯科理工学)</p> <p>予習は不要です。配布プリントを読んで復習して下さい。(歯科放射線学)</p> |
| 成績評価 | <p>定期試験・小テスト(歯科理工学) 定期試験60%、課題レポート40%(歯科放射線学)</p> <p>単位認定者 松岡 村上</p> |
| テキスト | <p>医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科材料(歯科理工学) 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論(歯科理工学)</p> <p>永末書店 第4版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎(歯科理工学)</p> <p>永末書店 歯科衛生士講座 歯科放射線学(歯科放射線学)</p> |
| 参考図書 その他 | 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 歯科機器(歯科理工学) |

| | |
|--|---|
| 科目名 | 臨床実習Ⅰ |
| 講師 | 各施設実習指導者 |
| 学年・期 | 2年生後期、8単位、360時間 |
| 実習目標 | 医療に携わる者としての自覚を持ち、学内で習得した知識・技術・態度を活かし、一般治療の準備及びアシスタントワークを行うために必要な実践力を身に付ける。 |
| 実習計画 | |
| 実習目的 | 臨床の現場において歯科診療の流れ、歯科衛生士の業務について習得する。 |
| <p>診療所では歯科医師を中心にチームワークの中で、患者さまとの信頼関係を築き、診療活動を行っている。その現場でチームの一員としてマナー・規則を守り、学校で学んだ基礎知識・技術に基づき、臨床実習を通じて歯科衛生士としての知識・技術・品格の向上と、臨床現場で通用する実践力、応用力、患者対応力を身につける。</p> | |
| 実習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを整えることができる。 ・実習生としてふさわしい言葉遣いができる。 ・意欲的に実習に取り組むことができる。 ・積極的に質問する事ができる。 ・指導者の方への報告・連絡・相談ができる。 ・清潔・不潔を理解し、スタンダードプリコーションを実践できる。 ・手指の手洗い、消毒ができる。 ・器具の性質に合わせた消毒・滅菌ができる。 ・一般治療に必要な器材の名称・用途が説明できる。 ・一般治療に必要な器材の準備・片付けができる。 ・患者一人ひとりに合わせて誘導することができる。 ・患者に合わせたコミュニケーションがとれる。 ・共同動作が実践できる。 ・印象採得の準備・補助ができる。 ・概形印象・対合の印象採得ができる。 ・セメントの準備・練和ができる。 ・一般治療の術後説明ができる。 ・臨床現場での歯科衛生士の役割を知る。 ・患者の情報収集・情報分析、計画立案を考える事ができる。 |
| 履修上の注意 | 常に社会人としての姿勢を忘れずに責任をもって行動すること。実習指導者や患者様への言葉づかいに注意し、服装や容姿にも気を配り、しっかりと挨拶ができ、好感のもてる態度で臨むこと。積極的な態度で臨み、実習指導者の指導を受けながら教科書や参考図書を用いて臨床での疑問をできるだけ早い時期に解決できるように心がけること。臨床実習終了後、実習報告会を実施する。 |
| 成績評価 | 実習評価表に基づき、出席状況、情意面・知識面・技術面、およびレポート等の提出状況について実習指導者と本校教員が判定する。 |
| テキスト | |
| 参考図書 その他 | 臨床実習要項 |

| | | | |
|------|-----------------------|--|--|
| 科目名 | 摂食嚥下リハビリテーション I | | |
| 講師 | 児玉 秀樹 清水 豊子 | 講師略歴 大阪歯科大学卒大学院卒 慶応義塾大学大学院卒 歯科医師歯学博士 MBA 大学歯学部 や多くの歯科衛生士学校で教鞭を取る。摂食嚥下リハビリテーションは、口腔機能が低下し、話す、食べる、味わう、コミュニケーションを取るをリハビリテーションすることを目的とする。 (児玉) | |
| 学年・期 | 2年生前期. 2単位. 30時間 (講義) | | |

講義目標 歯科衛生士のための口腔機能の理解、摂食嚥下リハビリテーションについて学ぶ。

| 授業計画 | 内容 |
|------|--|
| 第1回 | 第1章 歯科衛生士と摂食嚥下リハビリテーション 第2章リハビリテーション |
| 第2回 | 第3章 摂食嚥下障害者への口腔管理と制度の理解 |
| 第3回 | 第4章 摂食嚥下機能のメカニズム |
| 第4回 | 第5章 咬合および咀嚼機能の管理と評価 |
| 第5回 | 第6章 栄養管理 第7章リスクマネジメント |
| 第6回 | 第8章 病態別摂食嚥下障害 |
| 第7回 | 第9章 摂食嚥下の評価 |
| 第8回 | 第10章 摂食嚥下リハビリテーションと口腔衛生管理 |
| 第9回 | 第11章 摂食嚥下訓練 第12章 歯科衛生士が行う摂食嚥下リハビリテーションの基本 |
| 第10回 | 摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士国家試験 |
| 第11回 | 摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割1 |
| 第12回 | 摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割2 |
| 第13回 | 摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割3 |
| 第14回 | 摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割4 |
| 第15回 | 摂食嚥下リハビリテーション 歯科衛生士の役割5 |

履修上の注意 事前に教科書を読んで置く事。質問に関してはメール等を用いる。

成績評価 単位試験問題成績と出席発言積極性を評価する。 単位認定者：児玉

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版

参考図書 第11回～15回 講師：清水豊子
その他

| | |
|------|--|
| 科目名 | 臨床検査 |
| 講師 | 東條 文昭 総合病院にて臨床検査技師として従事後、歯科医師を志し、3年次編入にて医学部入学。卒業後は歯科医師として一般歯科はもちろん、検査学、病理学講座に在籍。他専門学校でも講義をしている。 |
| 学年・期 | 2年生前期、2単位、30時間（講義） |

講義目標 検査のしくみやデータなどの理解を深め、国試のみならず臨床に出ても視野を広げられるようにする。

| 授業計画 | 内容 |
|------|---------------|
| 第1回 | 臨床検査と歯科衛生士の役割 |
| 第2回 | 生理機能検査 |
| 第3回 | 血液学的検査① |
| 第4回 | 血液学的検査② |
| 第5回 | 感染症検査 |
| 第6回 | 肝機能の検査 |
| 第7回 | 腎機能の検査 |
| 第8回 | 糖尿病の検査 |
| 第9回 | 代謝・内分泌疾患の検査 |
| 第10回 | 免疫・血清学的検査① |
| 第11回 | 免疫・血清学的検査② |
| 第12回 | 病理学的検査 |
| 第13回 | 画像検査 |
| 第14回 | 口腔領域の臨床検査① |
| 第15回 | 口腔領域の臨床検査② |

履修上の注意 筆記用具・ノート・教科書を準備する

成績評価 出席および定期試験 単位認定者：東條

テキスト 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ 臨床検査

参考図書
その他

| 科目名 | College Hour (総合学習) II |
|-------------|--|
| 講師 | 東 忍 外部講師 |
| 学年・期 | 2年生通年, 2単位, 60時間 (講義・演習) |
| 講義目標 | 歯科衛生士としての総合的な学力を育成することを目的とする。各テーマに添って授業を展開し学習目標の到達を目指す。社会人としての素養の育成としても構成している。 |
| 授業計画 | 内容 |
| 第1回 | 歯磨剤の応用 歯磨剤の科学 (企業) |
| 第2回 | 一般的診療で行われる診療についての流れ (用具説明等) |
| 第3回 | 訪問歯科の実状について |
| 第4回 | 臨床実習前セミナー 1 |
| 第5回 | 臨床実習前セミナー 2 |
| 第6回 | 口腔内カメラ撮影① (企業) |
| 第7回 | 口腔内カメラ撮影② (企業) |
| 第8回 | 臨床実習前実技確認① |
| 第9回 | 臨床実習前実技確認② |
| 第10回 | 臨床実習前実技確認③ |
| 第11回 | 臨床実習前実技確認④ |
| 第12回 | 臨床実習前実技確認⑤ |
| 第13回 | 臨床実習前実技確認⑥ |
| 第14回 | 臨床実習前オリエンテーリング① |
| 第15回 | 臨床実習前オリエンテーリング② |
| 履修上の注意 | |
| 成績評価 | レポート提出、また意欲や態度を評価し単位認定をおこなう。 単位認定者：専任教員 |
| テキスト | |
| 参考図書 その他 | オムニバスで行われる授業であるため、その都度配布資料等あり。 |

| 科目名 | College Hour (総合学習) II |
|-------------|--|
| 講師 | 東 忍 外部講師 |
| 学年・期 | 2年生通年, 2単位, 60時間 (講義・演習) |
| 講義目標 | 歯科衛生士としての総合的な学力を育成することを目的とする。各テーマに添って授業を展開し学習目標の到達を目指す。社会人としての素養の育成としても構成している。 |
| 授業計画 | 内容 |
| 第16回 | 臨床実習前オリエンテーリング③ |
| 第17回 | 臨床実習前オリエンテーリング④ |
| 第18回 | 臨床実習前オリエンテーリング⑤ |
| 第19回 | 臨床実習前オリエンテーリング⑥ |
| 第20回 | 臨床実習前オリエンテーリング⑦ |
| 第21回 | 臨床実習前オリエンテーリング⑧ |
| 第22回 | 臨床実習前オリエンテーリング⑨ |
| 第23回 | 臨床実習前オリエンテーリング⑩ |
| 第24回 | 臨床実習前オリエンテーリング⑪ |
| 第25回 | 臨床実習前オリエンテーリング⑫ |
| 第26回 | 歯科健康教育 1 |
| 第27回 | 歯科健康教育 2 |
| 第28回 | 歯科健康教育 3 |
| 第29回 | 歯科健康教育 4 |
| 第30回 | 歯科健康教育 5 |
| 履修上の注意 | |
| 成績評価 | レポート提出、また意欲や態度を評価し単位認定をおこなう。 単位認定者：専任教員 |
| テキスト | |
| 参考図書 その他 | オムニバスで行われる授業であるため、その都度配布資料等あり。 |